

Title	トーマス・モアのユートピアと其共産主義的思想 (下)
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.6 (1919. 6) ,p.687(23)- 723(59)
JaLC DOI	10.14991/001.19190601-0023
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190601-0023

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

掌握せんとする希望が如何に職工組合の内部に蔓延しつゝあるやの一斑を窺うに難からず。資本家と労働者との境界を撤廢する所説の如き、年來一個の空想を以て目せられ、貸銀制度の如き、如何なる場合に於ても、必ず維持せられざる可からざるものゝ如くに認められたるが、今や曩日の空想は必ずしも一片の空想に非ずして、實行的價値の存すると同時に、從來の經濟社會に於て、必要とせられたる制度亦敢て然らざるの觀なき能はず。時勢の變遷の急なること、眞に驚く可しとす。斯る際に臨んで、我國に於て漠然資本労働調和論の唱出せらるゝが如き、滑稽と云はんか、奇怪と嘲らんか、之を評するの辭なきに苦むものなり。

トーマス・モリアのユートピアと其共產主義的思想(下)

高橋 誠 一 郎

八

外征に急にして内政を顧みざる國王君侯、懶惰放恣なる貴族郷紳、横暴なる資本的牧畜業と窮民の増加、有害なる獨占と一般物價の騰貴、苛酷なる刑罰、過重なる課税、王權に依りて是認せられ、時に設定せられたる適法の不正——是等は總てUtopiaの第一編に於て吾人の眼前に明確に表示せられたる所のものなり。爰に描き出されたる當時の社會状態は何れの見地より觀るも陰慘たる繪畫なり。然れども第二編に入るに及びて局面は一變せり。茲に吾人は富もなく貧もなく至善至福なるUtopia國の全然相異せる光景に接するを得るなり。

遮莫彼が此無何有の理想郷を説くに當りても、其全篇を通じて吾人は彼の心意が常に現實の英國を離るゝこと能はざりしを認むるなり。Utopiaは英國と等しく

島國にして、同國の征服者たる Utopus (Utopia の國名は彼の名に負へるものなり、其舊名は Abraxa) は嘗に William 勝王に比し得可く、而して其首都 Amatorote (希語 *αμαυροτε* に由り、朦朧、縹渺として定かに認め得ざるの義にして、無何有郷の首都たるに相應し、獨り夢幻界にのみ發見し得可きもの、意なり) に沿へる Anyder 河 (*αυδερ* 即ち水無し) の義に出で、假想の河を意味す) は頗る酷く Thames 河に類似し、之と等しく壯麗堅牢なる拱門を有する石橋を架せられたり。而して同時に吾人は又中古に於ける都市的若しくは領域的封鎖經濟を繼承し擴張せる國家的封鎖經濟の理想を茲に認むるを得可し。Utopia 國自然の地形と Utopus 王の起せる大土工とは先づ這般の事實を物語るものなり。

嶋内に廣大美麗なる五十四の都市即ち州の首都 (shire townes) あり、悉く皆言語、風俗、制度及び法規を等しうせり。彼等は地方的差違の許す範圍内に於て同一様に設置せられ、而して總ての點に於て等しく形成せらるゝなり。是等都市の中最も接近せるものも二十四哩を隔て、而して又其孰れと雖之に隣れるものより徒歩にて一日の旅程以上に隔絶せるとなし。各都市は年々國民共同の事項を審議討論

するが爲に、賢明にして經驗に富める三名の元老を同島の中央に位せる首都 Amatorote に派す。各州の管區領域は都市に對し頗る便宜に割當てられ、總て皆何れの方面に於ても二十哩以下の土地を有することなく、而して都市の隔離大なる方面に於ては遙に之よりも大なるなり。孰れの都市と雖、其州の領域境界を擴張せんことを欲するものなし。即ち彼等は其土地の所有者たるよりも寧ろ善良なる農民 (agricole) を以て自ら任ずるが故なり。彼等は其州内の各地方に家屋及び農場を建設し、農事に附屬せる各種の資料及び用具を以て遺憾なく準備せられたり。是等の家屋は交互に (by course, per vices) 居住するが爲に此處に来れる市民によりて住居せらる。地方に於ける家屋又は農場は四十人を降らざる男女と二人の奴僕 (ascripticii servi) とを有し、皆賢明、細心且老熟なる家長及主婦 (the good man and the good wyfe) の支配に従ふ。而して三十農場又は家族毎に一首長を有す、之を philarche (希語 *φιλάρχης* 即ち族長の語に出づ、後章に至りて之を以て Syphograunte なる Utopia の古語に對する現代語なりと記せり) と呼ぶ。是等家族又は農場の各個より既に二ヶ年間地方の生活を繼續せる者二十名を毎年都市に歸還せむ。彼等に代りて同數の

新なる者を都市より地方に派し、彼等は既に一ヶ年間此處に居住し、從て農事に熟達し、巧妙なる者によりて指導教養せらるゝものなり。而して彼等は又其翌年他を指南す可きものなり。這般の排列は若し彼等にして全然新參初心にして農事に不熟練なる者ならんには、知識の缺乏に由りて食料の不足若しくは其他之に類似せる不便を來す可きを怖るゝが故に存するものなり。毎年農事従業者を交代更新する這般の方法及び風習は何人と雖、其意志に反し長く此辛苦困難なる生活状態を持續するを強制せらるゝことなきが爲に、嚴重且常慣的に實施せらるゝ所なるも、而も彼等の多數は農業に對し多大なる快樂と歡喜とを有するの故を以て更に長年月間此處に滞在することを得るなり。是等の農民は土地を耕耘し、家畜を養殖し、用材、燃料を支給準備し、而して最も便宜なる方法に従ひ、陸路若しくは水路の孰れかに依りて之を都市に輸致するなり。彼等は人工孵化法を以て無數の家禽(Poultry)を飼育す。而して彼等は確實に都市並に之を圍繞せる地方全部が幾許の食料を消費するやを知悉せるに拘らず、猶、彼等自己の使用に資するよりも遙に多量の穀物を播種し、遙に多數の家畜を養殖し、而して其餘剩を彼等の隣境民の

間に分つなり。地方に於て不足せる必要品は其何たるを問はず、彼等は總て是等の資料を都市より輸出するなり、此處に彼等は何等の交換なくして容易に市の長官より之を取得するなり。即ち毎月彼等の多數は祭日(毎月の初日及び末日)を以て都市に入るが故なり。其收穫の日近くや、農事の長官たる Philarchs は市の長官に對し幾人の刈手を都市よりして彼等に派遣するを必要とするやを傳達するなり。而して是等刈手の一團は指定の日に於て用意全きが故に、殆ど好晴一日内に收穫の業を全部速了するなり。

三十づゝの家族又は農場は年々前記 Philarch を選出し、而して是等 Philarchs の各十人は總て其三十づゝの家族と共に chiefe philarche (Protophylarch 古は tranibore と稱す)の下に置かる。尙又君公(Prince)の選舉法を觀るに總數二百の Philarchs の全部は先づ彼等が最も適任且有利なりと思惟する人物を選舉す可きを誓ひ、而して後、無記名投票に依り、彼等は既に人民が彼等に指定せる四名中の一名を指定するなり。即ち市の四區より各一名づゝを選出して候補に立たしめ、之を元老會議に推薦するなり。君公の任期は終身なるも、苛政暴虐の嫌疑に由りて、免黜せらるゝことある

ものなり。彼等は年々 *transire* を選舉するも、而も輕々に之を變更することなし。總て他の官吏は一ヶ年を以て任期と爲す。*transire* は君主と共に三日目毎に集會し、而して必要ある場合には時々其回数を増加す。彼等の會議は國事に關するものとす。庶民の間に或爭議を生じたる時は、それは極て稀なるも、彼等は遅延することなく (*nature*) 速に之を落着せしむるなり。開會の場合には常に二人の *syphogante* を出席せしめ、而して彼等は毎回交代するなり。而して總て國家に關する事項は發布を見るの前、會議に於て三日間論究討議せられたる後に非ざれば、確定是認せらるゝとなきを規定せらる。元老會議又は公會の場所以外に於て國事に關し或協議を行ふは其罪正に死に當たる (*capitale habetur*)。彼等の言に據れば這般の法則は君主及 *transire* 等をして暴政を以て人民を壓迫し、國體を變革するが爲に容易に共謀一致せしむることなからしむの目的を以て制定せられたるものなり。斯くて最も重要な事項は之を *syphogante* に告示せざる可らず、而して彼等は該事項を其家族に開陳するなり。而して後、彼等が互に評議し終りたる時、其案を元老會議に提出するなり。時に或事項は全島の會議に附議せらるゝことあるなり。

農事は男女を問はず、遍く彼等の全部に共通なる可き職業 (*artibus*) にして、彼等は孰れも之に熟達し精練せり。彼等は皆早く其弱年の頃よりして一部分は學校に於て慣例及び教規を以て、而して一部分は都市に近隣せる地方に於て農業上の教育を受け、管に其實際を見るのみならず、又其身體を操練するの必要に基きて之を實習し、宛も遊戯に於けるが如く教育せらるゝなり。彼等の全部に共通なる農事の外、其總ての者は彼等が自己特有の職業として或特殊の手工を修得するなり。そは大體に於て羊毛又は亞麻布製造業、石工、鍛冶職若しくは大工業の外に出づることなし。即ち彼地に在りては他の職業は毫も之を謂ふの價值なければなり (*For there is none other occupation that any number to speake of doth use there*)。何となれば彼等の衣服は全島を通じて一樣にして、唯だ男女及び既婚者並に未婚者の服裝の間に差違存するなり、且そは永久變化することなく、外觀似合はしく優美にして、身體の動作起居に妨害たることなく、又夏冬共に適するを以て、各家族は自ら其衣服を仕立つるなり。而も曩に謂へる他の職業中より各人は孰れも其一を修得せざるを得ざるなり。而してそは管に男子のみならず、婦人亦然りとす。然れども婦人は男

子に比して柔弱なるが故に羊毛及び亞麻の紡織の如き比較的輕易なる職業を配せらる。一層辛勞大なる業務は男子に委ねらるゝなり。大體に於て各人は其父の職業に就て教育せらる。即ち彼等は自然之に其心を傾け之を愛好するを最も普通とすればなり。然れども若し或人の心意が之と異なる手工に従事せんとするに傾き (also *talent*) たる時は、彼は養子として其選みたる職業の家族中に入るなり。實に其父のみならず、市の長官も亦努めて彼の爲に其細心正直なる戸主に委せられんことを覓むるなり。然り而して若し或者が既に一手工を修得したる時、更に他の一を修得せんと欲する時は彼は等しく之を許容せらるゝなり。彼が兩者を學習したる場合には、都市が殊に他に比して其一方を必要とするに非ざれば、彼は其欲する所のものを業とするを得るなり。 *syphograutes* (*philarchs*) の最も主要にして且殆ど唯一の任務たるものは何人も懶惰に流るゝとなく、各人をして最も眞摯なる留意を以て其業務に勉勵せしむるの注意を怠らざるに在り。而も尙是が爲に役畜及び駄獸の如く、朝早くより夕晩くまで不斷の勞作によりて疲勞するとなきを注意せざる可らず。即ち斯くの如きは奴僕の悲惨窮苦なる境涯よりも更

に劣れるものなり。而も斯くの如きは尙 *Utopia* に於ける外、殆ど到る處に見出さるる職人及工匠の生涯なり。而も彼等は晝夜を二十四の正しき時間に分ち、僅に其六時間(一千五百五十六年の *Robynson* 譯第二版より *Arber* 博士版に寫されたる誤植及び *Cameiof*、*Keimscott* 並に其他の翻刻に現れたるが如く、九時間に非ず)を勞作に割當 (*sex duntaxat. operi deputant*) 即ち午前三時間 (*Robynson* 譯の原版は單に *before none* と記せるも、それは疑もなく其前 *to worke* の後に *三* の文字を脱せしものなり。羅典原文は明に *tres ante meridiem.* と記せり) を終りて正午直に彼等は正餐に着き、而して食後二時間の休息後、再び三時間の勞作を行ひ、而して之を終りて晚餐に赴くなり。凡そ夜の八時を以て、茲に括弧を用ひて挿入せる *countinge one of the clocke at the firste houre after noone.* の文句に就きて疑義あり。恐らくは日時計によりて標示せられたる午後の第一時に於て、彼等は其時に一時として標示せられたる點を算すの意義なる可しと謂ふ。前掲 *Lundy p. 236.* 或は曰く本文の *三* は *二* の誤植なる可しと、同 *p. 208.* 床に就き、八時間を睡眠の爲に與ふるなり。有ゆる閑暇の時間、即ち勞作、睡眠及び食事時間の間に存するものは各人をして其任意に之を利用するを

許容せらる。そは彼等をして斯くの如き時間を放埒又は懶惰の裡に空費せしむるが爲に非ずして、該時間に於ては彼等は自己の職業に就きて勞働するを免せらるるが故に、其欲するが儘に他の學術に是等の時間を有利に且節約して充當せしむるを目的とするなり。即ち彼地に於ては毎日早朝公開の講演を開くるの習慣を嚴守して變せず、之に出席するの義務ある者は特に學問研究の爲に選定せられたる者のみに限るも、而も男女を問はず各種人民の非常なる多數は其資性に従ひ各其好む所を選びて聽講に赴くなり。

彼等が單に六時間を勞作に與ふるに過ぎざるを見て、恐らく諸君は是が爲に必要品の缺乏を來すことある可しと思惟するならん。然れども事實は全然之に反し、這般の短少なる時間は生活の必要若しくは便益の爲に缺く可らざる總ての物の蓄積及び充實を得るが爲に十分なるのみならず、却て餘りあるなり。諸君にして若し他の諸國に於ては人民の如何に大なる部分が遊惰の生活を送りつゝあるかを熟慮し省察せば、諸君は又這個の事實を知解するなる可し。第一に擧ぐ可きものは全人口の一半に相當する婦人の殆ど全部なり、若し又然らずして婦人が何

等かの業務に従事せる地方に在りては男子は之に代りて斯聲高く惰眠を貪りつゝあるなり(earum vice viri stertunt)。其外僧侶、僧院の生活に従ひつゝある者(religious men)富者殊に郷紳、貴族と稱せらるゝ有ゆる土地所有者、余が圓楯を持せる無頼漢の群集(cetratorum nebulonum colivies. 英譯はThat flocke of stoute bragging rushe bucklers と記せり)を意味する彼等の從僕并に或疾病の口實の下に其怠惰を覆ひつゝある強健にして勞作に堪ゆるに拘らず、乞食の生涯を選める者に就きて考ふる時は諸君は實に現今日々人事に使用せられつゝある一切の物件は諸君の想像するよりも遙に少數者の勞働に依りて製作せられつゝあるを發見するなる可し。而して是等勞作に従事する少數者中必要なる仕事に従事しつゝある者如何に少數なるかを顧慮す可し。即ち必然吾人が貨幣に據りて有ゆる物を量定する所に在りては(omnia pecunias metimur)單に放逸なる奢侈鄙陋なる快樂に資するが爲に數多の無益にして餘冗なる職業を生ぜざるを得ざるなり。即ち現今勞務に従事しつゝあると同一の多衆が若し本然に必要な用途の要求するが如き職業のみに分配せらる可しとせば、現在必要とするに等しき物件の大豊富を來すが故に、疑もなく、工匠に

取り其生計を維持する能はざる迄に其價格は低廉と爲る可し。而も若し遊惰無爲の生活を送りながら孰れも皆他人の勞働に依りて生じたる物を勞働者其人の二倍以上消費浪用する者の全群の總てと共に現時無用の職業に従事しつゝある者の全部が有用なる職業に従事す可しとせば諸君は必要便益若くは又快樂其快樂にして真正且自然なるものとせばの爲に要望する總ての物件を吾人に供給するが爲には極めて僅少なる勞働を以て十分なるのみならず寧ろ多きに過ぐるものあるを容易に認知するなる可し。而して是實にUtopiaに於て明白に顯れたる事實なり。即ち彼地に在りては全都市並に之に隣接せる全地方又は州に於て勞作するが爲には既に頽齡に過ぐるか又は虚弱に過ぐるとなき男女總數の内僅々五百人が勞働を免除せらるゝに過ぎず。彼等の中に syphogantes あり彼等は法律に據り勞働を免除せらるゝと雖、而も彼等は尙自ら模範を示して他を勞作せしむるの刺戟を與ふるの意向を以て自ら之を廢除することなし。斯くの如き勞働の解除は又僧侶の推薦及び syphogantes の無記名投票に由りて人民が永久に勞働を免除せられて研究に従事する免許を與へたる人々の享有する所なり。然れども若し

彼等の中何人と雖、彼に對して期待せられたる所に添はざるを示したりとせば彼は直に工匠の仲間引き戻さるゝなり。而して之に反し、手工業者にして一心に其餘暇の時間を學事に捧げ、而して精勵の效果顯れて著しく此方面に於て進歩を見たるが爲に手職を免除せられて學者の仲間に進ずること稀有に非ず。這個學者の階級より大使、僧侶、*patrons* 而して最後に君公其人も亦選任せらるゝなり。彼等は總て有益なる職業に従事し而して同一手工に於ては僅少なる勞働者をして以て足るが故に、彼等の間には有ゆる物件の豊富を輸致するなり。彼等は往々にして或街道の破損せる場合に於て之を修繕するが爲に無數の民衆を誘致するなり、又何等斯くの如き勞務の従事す可きものあらざる時は屢其勞働時間を短縮す可き公の布告を發するなり。即ち長官は市民の意志に反し不必要なる勞働に彼等に従事せしむることなきなり。實に此國に於ける這般の制度の目的とする所は専ら總ての市民をして國家に取りて必要なる職業及び事務より節し得可き時間を悉く肉體的勤務より移して、其精神の自由なる活動及び之が修養に供することを得せしめんとするに存するのみ。即ち彼等は茲に人世の幸福は存するも

のと想像するなり。

九

Utopia に於ては、都市は家族より成り、家族は一般に血族 (kinetes) より成立するを常とす。即ち婦人は其法定の年齢に於て結婚したる時は其良人の家に入るが故なり。然れども男兒は全男系の總てと共に其生家に止り、而して最も年長高齡の父によりて(其老耄せざる限り)支配せられ、其の老耄せる場合には之れに次げる年長者を以て彼に代ゆるなり。然れども規定せられたる市民の數を減少し又は法外に増加せしめざるの目的を以て、各都市に於ける總數六千の家族(地方に於けるものゝ外)は熟れも同時に、凡そ十四歳内外の兒童十人以下若しくは十六人以上を有す可らざるを命ぜらる、即ち該年齢以下の兒童に對しては其數を規定すること能はざるが故なり。這般の定數は過大なる家族の超過人員を子孫の數少き家族に入らしむるに由りて容易に之を確守持續するを得可し。而も若し全市が定數を超過する時は、其超過人員を以て他市の不足を填充し、更に全島に亘りて人口の過剩を告ぐる時は、各市より一定の市民を選抜して植民地を建設するなり。而し

て植民地の建設は時に戰爭を誘起することある可しと雖、一人民が毫も有益なる用途に供用することなき土地を擁して他の來りて之を利益し所有するを拒むは最も正當なる戰爭の理由たる可きものと看做れたり。

「既述せるが如く、最年長者は家族を支配す。妻女は彼等の良人に、兒童は其父母に、而して略言すれば、年少者は其年長者に奉仕するなり。各都市は四つの同一なる部分又は區域に分割せらる。各區の中央に各種物件の市場あり。茲に各家族の製作は一定の家内に齎さるゝなり。而して各種の物件は別々に(英譯は several)なる文字を使用す、羅典原文は *sothe* に納屋又は倉庫に貯藏するなり。此處よりして各家族の最年長者即ち各戸主は總て彼及び其家族の必要とする所のものを取得し、而して貨幣なく、交易なく、全然何等の報償なく (*sine omni prorsus hostimento*) 彼と共に之を持行くなり。即ち彼に對して或物件が拒絶せらる可き理由存せざるが故なり。蓋有ゆる物件は豊富にして、而して或者が所要以上を要求するを疑懼す可き根據なければなり。即ち人は彼が決して不足を憂ふることなきと確信せる場合に、如何にして其所要以上を要求す可しと思惟せらる可きか。疑もなく有ゆ

る種類の生物に在りては單に缺乏に對する恐怖に驅られ、尙又獨り人間に在りては財物の餘冗無益なる虚飾を以て他に超越し卓絶するを以て榮譽と傲すの自負に由りて貪慾及び劫掠を生ずるなり。Utopia 民の間に在りては此種の惡徳は毫も存在するの餘地なきなり。」

是等の市場に隣りて各種の食料品市場 (meate markettes) あり、此處に既に奴隷の手に屠殺せられ洗滌せられたる畜類を輸致するなり。屠殺は市外の河邊に於て行はれ、斯くて惡疫の原因たる不潔、不快若くは不淨なる物を都市に輸致するを免るゝなり。「加之、各街には各他に對して同一距離に設置せられ、孰れも特殊の名稱によりて知られたる宏大なる會館あり。syphogranter は是等の會館中に住す。而して該會館の各個に對し片側十五づゝ三十の家族を指定す。各會館の賄方は一定時に食料品市場に入り、此處に彼等は其會館に屬する家族の氣力に應じ(英譯は單に accordinge to the number of their halles. と記せるのみ、獨譯には der Stärke der Familien entsprechend, die zu seinem Palast gehören. とあり)食料を受理するなり。然れども總ての者(賄方)の中最高最良なる者は病院に於て看護せらるゝ(curantur)病人に屬するものなり。」

即ち四個の大病院は都市の周圍に在り、而して各患者は病院に於ける加養を自家に於けるものよりも却て喜ぶまでに良く整頓せるなり。「午餐及び晚餐の一定時間に於て全 syphogranterie は眞鍮の喇叭の響に豫示せられて病院に在る病人又は其他彼等の自家に在る者を除き皆是等の會館に來るなり。然れども何人と雖、是等會館の所要の滿されたる後市場より其自宅に食料品を持ち歸るを禁止せらるゝとなし。即ち彼等は何人も正當の理由なくして之を行ふ者なきを知るが故なり。即ち何人も家庭に於て食事するを禁せらるゝことなしと雖、而も之を以て頗る不方正 (of small honestie) なることゝ認むるが故に、何人も進んで之を行ふ者なし。而して又最も近き會館に於て善美なる料理を以て迎へらるゝ場合に自宅に於て粗惡なる食事を調理するの勞を執るは最も痴愚の行爲と謂ふ可きなり。此會館に於ては有ゆる不快、困難且下賤なる勞働は奴隷によりて遂行せらる。而も各家族の婦人は交代に (by course) 食物の調理及び献立並に食事に關する一切の注意を行ふ。彼等は其團體の數に従ひ三個若しくは其以上の食卓に着席す。男子は壁に接せる腰掛に坐し、而して婦人は食卓の他の側に着きて彼等と相對せり、斯くて屢姪娠

せる婦人に起るが如く、若し彼等に對し或不意の不快(獨)Unwohlsein 英はevylと記す)を生じたりとせば、彼等は他人を煩し又は騒すことなく起立して此處より育兒室に退立するを得せしむるなり。保姆(獨譯はdie Frauenと記す)は其乳兒と共に彼等の爲に特に指定委附せられたる一定の居室に獨り離れて坐するなり、而して其内には火氣及び清水を缺くことなく、又搖籃の設ありて彼等は其欲するに従ひて嬰兒を横臥せしめ、隨意に彼等より其襁褓を脱して、之を火に燥し、而して奏樂を以て彼等を樂しましむるを得るなり。總て母は死亡又は疾病によりて不可能ならざる限り、自身の子女を養育す。然らざる場合にはsyphorantesの夫人は急速に保姆を供ふるなり、而してそは困難なることに非ず。即ち之を爲すを得るの婦人は如何なる勤務よりも欣んで之に其身を捧ぐるなり。何となれば彼地に在りては此種の愛憐は著しく稱揚せられ、而して養育を受けたる兒童は爾後永く其保姆を以て自己の生母なりと認むるが爲なり。總て五歳以下の兒童も亦保姆の間に居るなり。他の結婚年齢以下なる兩性の兒童は女子と等しく男子も亦食事の給仕を行ひ、若し又之に對して年少に過ぐる者も尙驚く可き靜肅を以て佇立傍觀する

なり。彼等は食卓より彼等に與へらるゝものを食ひ、而して他に特殊の食事時間を有することなし。「彼等は何等の害惡をも生ずることなき快樂に就きては其如何なる種類をも禁止す可きに非ずとなすの意見に著しく傾けり」。彼等が都市に於ける共同生活の状態正に斯くの如し。「然れども地方に在りては彼等は互に其隣人より遠く離れて居住するが故に、其自宅に於て別箇に食事を行ふなり。即ち市民の生活資料は總て皆彼等より出づるものなるが故に、其如何なる家族も總ての種類の食料を缺くことなし。」

十

「各都市は毎年首都Amaurote(Amaurotum)に同島の公務を處理するが爲に其最も賢明なる長老の三名を代議員として派遣す(獨譯に據る)。應て其會議に於て過不足が如何なる物件に就き又何處に存するかを完全に知悉するや、直に一地方の夥多は他の缺乏を補足するなり(alterum inopiam alterius profusus ubertas explet)」。而して彼等は何等の利得なく、其物件を給與したる者より何物をも回收するとなくして快く之を行ふなり、而も該市より何等の代償を要求するとなく其豊富なる物を之を缺け

る或他の都市に給與せる是等の都市は亦何物も與へずして其不足せる物を他の都市より收受するなり。斯くて全島は宛も一家と異るとなきなり。然れども彼等は自己の爲に十分なる所要物件の準備を爲せる時は(彼等は翌年に於ける收穫の結果不確定なるが故に、次の二ヶ年に對し準備する迄は十分と思惟することなし)其豊富に有する是等諸物件を多量に他國に輸出するなり。「而して彼等は總て是等物件の七分の一を彼國の貧民に快く無代を以て給與し、殘餘を相當なる價格(precio medicis)を以て賣却す。彼等は此通商貿易によりて常に多額の金銀のみならず、彼等が國內に不足せる有ゆる物(それは殆ど鐵のみに限られたり)をも亦自國に輸入するなり。而して彼等は既に久しく此貿易を行ひ來れるが爲に、今や何人も信ずる能はざる迄に是等の物件を豊富に所有しつゝあるなり。されば是に由りて彼等は現金に對するか若くは又一定期日に於て支拂はる可く、而して大部分を債權として所有す可き信用を以て賣却せらるゝかを顧慮することなし。然れども之を爲すに當りては彼等は決して私人の信用に依頼するとなぐ之が爲に作製せられたる證書に對し全市の保證を求むるなり。支拂の期日が到來し満了した

る時は、該都市は私債務者より(a privatis debitoribus)負債を徴收して、之を共同の庫中に納め、而して彼等の債權者たる Utopia 人の之を請求するに至る迄、長く之を使用し收益するなり。彼等は嘗て其大部分を要求するが如きことなし。即ち彼等は自己に取りて何等の利益なき物を是に由りて利益を受けつゝある他の者より取り去るは公正なる事に非ずと思惟するが故なり。「彼等が之を回收するは其一部を他の國民に貸與せざるを得ざるか、若しくは彼等が開戦せる場合なり。彼等が國內に其所有する總ての財貨を保留するは單に是に由りて其危急を免れんとするに在るなり。而も其主たるものは是を以て法外なる高給を支出して外國兵を備ひ入るゝに在るなり。即ち彼等は貨幣に對して克く彼等の敵兵其者と雖屢賣買せられ、若しくは又謀反に由りて内争を喚起し得可きを知るが故に、彼等は寧ろ自國民よりも外國人をして危急に赴かしむるなり。(茲に吾人は國內に對して共產主義者たる More が外に對して一種の資本的侵略主義者たるを見るなり)。

Utopia に於ては金銀は本來鐵に比して要用尠きが故に之に劣るものと考へらる。
(Quis non videt quam longe infra ferrum sunt?)。自然は何等の要用を金銀に賦與せ

ざるが故に、人間の痴愚が其稀少なるの故を以て之を高く估料するとなくんば之を有せざるも吾人は何等の不便を感ずるとなし。至慈至愛の母たる自然は最良最要なる物を汎く共通弘布せしめたり、例ば空氣、水及土地其者の如し。而して無用無益なる物は之を最も遠く吾人より移して隠匿せり。金銀は瑣末卑陋なる家内の用器に製造せられ、又罪人を縛する鏈鎖、脚鎖として使用せらる。而して寶石、珠玉亦嬰兒の玩具たるに過ぎず。曾て Anemolians (*Anemolians*) に出で、空虚を意味すの大使 Amaurote を訪へるとあり。彼等は Utopia の島民が頗る質素なる服裝を爲せるを聞知し、是を以て彼等が貧困なるに起因するものなりと誤解し、其被服と金銀珠玉の華美とを以て彼等を感動せしめんと企圖したり。然れども Utopia 民は彼等が金鎖を懸けたるを見て之を奴隸なりと判断せり。既に其眞珠珠玉に倦みて之を抛棄せる小兒は大使の冠に之が附着せる見て其母に謂ひて曰く、彼が宛も嬰兒の如く未だ眞珠寶石を帶ぶるは非常なる木偶坊に非ずやと。而も其母は眞面目に答へて曰く、彼は大使の弄臣なる可しと。或者は又其鎖が餘りに纖弱にして奴隸は容易に之を破却し得可く、又餘りに廣緩にして其欲するが儘に之を脱して自由

由に逃走し得可しと倣せり。

十一

彼等は其自ら戦へる戦争に於ける外は戰場に於ける捕虜を奴隸と爲し、若しくは奴隸の子を奴隸たらしむるとなし。彼等の間に於ける奴隸は専ら自國の重罪犯人若しくは苦役に堪え兼ねて自己の自由意志を以て *Congia* 國の奴隸たらんことを選べる外國の貧窮なる労働者より成る。病人に對しては醫藥攝養の注意到らざるなきも、不治の患者にして其生存が單に彼に取りて苦惱に過ぎざる時は僧侶と長官とは彼を説きて其希望に由りて牢獄は等しき生命を脱離せしむるを得るなり。女子は十八歳、男子は二十二歳以前に於て婚姻することなし。「若し男女何れを問はず、其結婚以前に私通せること明とならば、犯罪當事者は嚴重に所罰せらる可く、而して其過失が君主の宥恕に由りて赦免せらるゝに非ざれば爾後永く其全生涯を通じて結婚するを禁止せらる。而も斯くの如き犯罪の行はれたる家の家長及び主婦も亦共に其監督を怠りたるものとして非常なる非難惡評を蒙るを免れざる可し。彼等は努めて這個の惡習の横行を防遏するに非ざれば、全生涯を一人と共に送り、而して又之に伴れて生ずる有ゆる憂愁及び不快を容受せざる

可らざる結婚の愛に於て結合する者殆ど絶無なる可きを認むるが故に這般の犯罪は斯くの如く峻酷に所罰せらるゝなり。加之妻女及び良人を選択するに當りては我等に取りては頗る滑稽の觀ある一の慣習を眞摯且嚴重に遵奉するなり。即ち結婚の契約に先立ち有徳の刀自は處女たるを寡婦たるを問はず婦人を求婚者に對し赤裸々に示すなり。等しく又嚴肅なる大人は求婚者を赤裸々に婦人に顯示するなり。吾人(Hytlodayeの一行)は這般の習慣に對し之を以て蒙昧なることとして嗤笑し排斥せり。然れども彼等は却て有ゆる他國民の愚昧を訝ること大なり。或者が小馬を購ふに際し、賭する所は少額の貨幣なるに拘らず、頗る綿密周到にして、そが殆ど全部赤裸なるに、尙彼は鞍及び一切の裝具を脱し去るに非ざれば或瘡傷が是等の被覆下に隠蔽せられたるを恐れて之を購入することを欲せざるなり。而も尙妻の選擇に際しては、彼等に取りて爾後に於ける其全生涯の不幸と關係あるに拘らず、頗る疎漏にして、彼等は其婦人の顔面以上に何物をも見ること能はず、彼女が肉體の有ゆる他の部分は皆被服を以て蔽はれたるが故に、彼等は辛じて一手幅によりて彼女を評價して、之と結婚するなり。總ての男子は相

手方の徳性の優れたるを選ぶまでに賢明に非ず、而して肉體の美は精神の美を増加せしむるものなり、實に賢人の結婚に於てさへ然るなり。忌はしき畸形が是等被覆の下に隠れ、且法律上夫婦の肉身を再び分離するを許されざる場合には疑もなく、男子の心を全然其妻より疎隔し去らしむることある可きなり。若し斯くの如き缺點が結婚の完了したる後に至り、或機會に於て初て發見せられたりとせば、實に忍耐以外に何等の方法存せざる可く、總ての人は甘じて其運命に服するの外なきなり。是に由りて彼等は斯くの如き欺瞞を豫め回避し無効ならしむ可き法律の制定を以て頗る至當なることと思惟するなり。而して、彼等は各夫熟れも一婦を以て満足せる彼地帯に於ける唯一の國家なるが故に、益熱心に之を遵守せんことを強制せらるゝなり。彼地に於ては姦通若しくは又孰れか一方の忍ぶ可らざる放縱なる態度に由りて夫婦の紐の斷たれたる場合を除き、死去に由るの外、決して婚姻の破棄せらるゝことなし。即ち若し彼等の一方が是等の或事由によりて惱されつゝあるを見たりとせば、彼等は元老會議の免許を得て離婚を行ひ、他に其配偶を求むるを得るなり。而も相手方は爾後永く醜名を傳へられ再婚するこ

と能はざるなり。然れども良人は如何なる他の瑕疵に對しても其妻を離別することなし。即ち彼等は或缺陷又は病患が其妻の身體に生じたりとするも毫も之を苦とすることなきなり。何となれば何人と雖彼等が援助と慰安とを要すること最も大なる場合に見捨てられ嫌悪せられ、而して疾病を誘發し、又夫れ自體既に疾病たる老年に於て不深切不信實なる待遇を受くるは無殘の極と考ふるが爲なり。而も時に男女が互に克く和合すること能はずして、兩者共に他の配遇を見出し、一層平穩且幸福に之と同棲せんとを欲するに由りて兩者の完全なる承諾に基きて離婚を行ひ、而して他と再婚することあるなり。然れども元老會議の許可なくして之を行ふこと能はず。同會議は其議員及び其妻女の手該事件を充分吟味審査したる後にあらざれば、如何なる離婚に對しても同意することなし。然り、而して又彼等が容易に離婚を行ひて他と再婚するを得るを知るは愛情を薄弱ならしむるに與つて最も力ある所なるを知るが故に彼等は之に對して許可を與ふることを喜ばざるなり。姦夫姦婦は最も苦痛なる奴役を以て所罰せらる。而して若し犯罪者の双方が既婚者なりとせば、是が爲に損害を受けたる當事者は姦夫

若しくは姦婦(avouters)を離婚するが故に、彼等にして欲する時は相共に結婚し、若しくは又其求婚に應じたる者と結婚するなり。然れども若し彼等の一方が猶依然として斯くの如く無情なる同衾者に對して愛を持續する場合には、潔白なる當事者の希望に據り、犯罪者は奴役に服しつゝあるに拘らず、彼は之と同棲を繼續するを許さるゝなり。而して一方の悔恨と他の熱心なる愛着とは相俟ちて君公を動して憐憫の念を起さしめ、奴隸をして再び束縛を脱して自由を回復せしむるに至ること頗る多し。然れども若し同一當事者が再び這般の過誤に陥る時は到底死刑を免るゝとなきなり。他の犯罪に關しては如何なる法律も一定の刑罰を規定することなし。而も是に對する公の刑罰が其態度を改めて正路に進ましむるが爲に資する所大なる迄に戰慄す可き犯罪を行へるに非ざれば、夫は其妻を懲罰し、而して親は其子女を懲罰するなり。遮莫最も嫌悪す可き犯罪は奴役の刑(servants' incommodo)を以て所罰せらるゝを最も普通とするなり。

「名譽心餘りに過大なる者は終生永く名聲を博するの見込なし。如何なる長官も倨傲にして畏怖の念を生ぜしむることなきが故に彼等は相共に親密なる生活

を爲す。彼等は父と呼ばれ、又自ら父の如くに處するなり。市民は(そは彼等の義務なるが故に)何等の強制を受くることなく進んで彼等に相當の尊敬を拂ふなり。君公其人と雖、亦堂々たる衣冠を以て其威嚴を示さんとすることなし。

「彼等は極めて少數の法律を有するに過ぎず。蓋斯くの如く教養せられ整齊せられたる人民に對しては頗る少數の法律を以て足るが故なり。實に彼等は他國民が無數の法典及其註釋を以て尙足れりとせざるを先づ非難するなり」。加之彼等は全然辯護士、代訴人の類を必要とすることなく、各人皆法律に精通す。

Utopia 民は外國人と同盟を締結することなし。即ち彼等は同盟が決して忠實に遵奉維持せらるゝことなく、而してそは人類をして相互に敵手として生れたるの感を抱懷せしむるを以て其成立は既に不善なりと思惟するが故なり。人は他を見るに仇敵を以てす可らず。友誼は強大なる聯盟なり。 No man oughte to be counted an enemye, whiche hath done no injurje. And that the felowshippe of nature is a stronge league; and that men be better and more surely knit together by love and benevolence, then by] covenantes of leagues; by hartie affection of minde, then by wordes.「頗る野獸的のもの (rem plane

bejuiam)なるに拘らず、如何なる野獸の間に在りても人類に於けるが如く之を見ること頻繁ならざる戦争は彼等の嫌忌し憎惡する所なり。而して殆ど有ゆる他國民の習慣に反し、彼等は戦争に於て獲たる盛名の如く何物も爾く不面目なるものなしと信ずるなり。而して是が爲に彼等は日々自ら戦争の訓練を行ひ、而して常に男子のみならず女子も亦必要なる場合に武藝に不鍛練なるを懼れて (as a bell-um sint inhabiles) 或指定の日を以て之を演習するも、而も彼等は自國を防衛し若しくは其友邦の土地より之を侵略せる敵兵を驅逐し、或は又彼等の力に依りて暴君の壓迫を受けたる或人民を其羈絆より脱せしむる場合の外は決して戦争を行ふことなし。尙國外に於ける一友邦の商人が不正なる法律に準據し、若しくは又善法の曲解により公正に假託して不正なる告訴を受けたる場合亦開戦の最も正當なる理由たるなり。戦争は主として Zapotes 其他よりの傭兵に依りて行はるゝこと既に述べたるが如し。而も Utopia 人は必要あるに臨んでは婦人に至る迄悉く軍人たるなり。即ち如何なる男子も其意志に反して國外に出征するを強制せらるることなきと等しく、其良人に同伴せんことを希望する婦人は之を禁止妨害せら

るゝことなきのみならず、寧ろ之を稱揚して刺戟勸奨するなり。而して戦列に在りて(in set fyde. 原文 in acie)妻女は孰れも皆良人の傍に立ちて戦ふなり。各人は其子、親戚及び姻戚によりて圍繞せらるゝなり。即ち先づ自然に相扶助するの傾向ある彼等は斯くて相共に戦線に立ちつゝあるを以て互に援助し合ふ可きが故なり。夫にして其妻を失ひ妻にして其夫を失ひ、又は子にして其父を失ひて歸國するは非常なる恥辱不名譽たるなり。

Utopia に於ては信教の自由一般に認められ、各種の宗教並び行はる。同島に於て基督教を信奉せんとする者を出したる一因は基督が其信徒の間に有ゆる物を共有たらしめ、而して斯くの如き共有の制度は猶最も正しき基督教の僧院の間に殘存するの點に存するなり。僧侶は女子に非ざる限り、國內に於て其性質最も卓越せる婦人と結婚す(婦人と雖、僧侶たること能はざるに非ざるも、彼等にして之れに選任せらるゝは極て少數にしてそは孰れも皆寡婦ならざるなし)。蓋し僧職はUtopia に於て最も名譽高きものなればなり。僧侶は人民の風俗を監督し、青年を教育す可きものとす。

斯くて Hythlodaye は其物語を結びて曰く、余の意見に據れば Utopia は實に最良の國家たるのみならず、同國のみ獨り克く國家(公共團體 common wealth 又は publique weale)と稱するの資格あるものなり。何となれば爾餘の地に於ても人は仍公益を云々するも而も各人は事實單に自己の私益を究めつゝあるに過ぎざればなり。

十二

Utopia に於ては何物も私有ならざるが故に、各人皆熱心に公務に其心を用ふるなり。而して實に彼我兩者は共に彼等が斯くの如く全然相反せる行動に出づ可き充分なる理由を有するなり。即ち他國に於ては縦令國家が如何に其繁榮を極むるも、個人にして自己の爲に別箇の準備を爲すに非ざれば(nisi quid seorsum prospiciat sibi) 彼は飢餓に苦む可きを知らざる者ありや。而して是が爲に彼は全般の幸福よりも寧ろ自己のそれを顧慮するの必要に驅らるゝなり。之に反し總ての物は有ゆる人に共通なる Utopia に於ては共同の倉庫が充實しつゝある限り、何人も其私用の爲に必要な何物をも缺くことなかる可きを疑ふ者なかる可きなり。即ち彼地に於ては何物の分配も鄙吝なることなく、又何等の貧乏人なく乞食なし。而し

て何人も何物をも有することなしと雖、而も總ての人は富裕たるなり。即ち總ての憂愁と悲哀とを斷ちて快く楽しく生活するに優りて有福なるものあり得可きや。Drogia に於ては各人は自己の生活を顧慮し、其妻の果てしもなき繰言に困惑せしめられ、其子の前途を氣遣ひ、又は其の婚資を調達するが爲に懊惱することなきなり。洵に彼等は全然自己の生存及び富裕なる生活を念とせざるのみならず、又其妻子、孫(英譯 nephews)、後裔(nepotum, pronepotum, abnepotum)及び永く其繁榮を繼承す可き全系統のそれに就きて顧慮することなし。而して尙此外現に勞働し盡力しつゝある者と等しく曾て勞働者たりしも今や虚弱にして勞働不能たるに至りし者に對しても同一の手當を缺くことなし。吾人は今爰に何人か克く這般の公正を以て他國の正義と比較せんとするの勇氣あるかを見んと欲す。余は神の名に懸けて他國民の間には何等公正及び正義の痕跡を見出すこと能はざるを誓ふ。即ち富有なる金匠又は貸金業者、略言すれば全然何事をも爲すことなきか、又は其行ふ所のものは國家に取りて必要ならざるが如きものが懶惰又は不必要なる業務に據りて愉快にして富裕なる生活を營みつゝある間に、貧窮なる勞働者、車力、鐵

匠、大工及び農夫が牽獸及び駄獸も克く堪ゆること能はざるが如き重大にして不斷なる勞務を行ひ、而して其の勞務は之なくして如何なる國家も一ヶ年を持続すること能はざるまでに必要なるに拘らず、役畜の境涯も猶遙に之れより良好なるが如き難澁貧困の生活を營み、窮苦悲惨の生涯を送りつゝある所に何の正義か存在。即ち彼等は其の間に於て將來を顧慮することなきが故に、其の勞働はさまで不斷のものならず、又其生活は是よりも遙に劣悪ならず、實に彼等に取りては是れよりも遙に愉快なるなり。而も是等の無知貧困なる薄倖者は單に現在に於て收益なく、成果なき勞働に苦惱しつゝあるに過ぎず。而して其の老境に於ける悲惨なる赤貧の境涯に想到せば、彼等は當に悶死す可きなり。即ち彼等が日々の勞銀は極て少額にして、其の日を過すにさへ足らず、況や老後の救濟の爲めに日々蓄積せらる可き若干の餘剰を生せしむるに於てや。Is not this an unjust and an unkynde publyque weale, whyche gyveth great fees and rewardes to gentle men, as they call them, and to goldsynnythes, and to suche other, whiche be either ydle persones, or els onlye flatterers, and devysers of vayne pleasures; and of the contrary parte maketh no gentle provision for poore plowmen,

colliers, laborers, carters, yronsmithes, and carpenters: without whome no common wealth can continue? But after it hath abused the labours of their lusty and flowering age, at the laste when they be oppressed with old age and syckenes, being nedye, poore, and indigent of all things, then forgetyng their so manye paynefull watchinges, not remembering their so manye and so greate benefites, recompenseth and acquyeth them moste unkyndly with myserable death. 加之、尙富人は獨り窃に詐欺の手段を廻すのみならず、又普通法の援助によりて日々貧民より彼等が活計の一部分を略取するなり。斯くて國家に對して利益を與ふること大なりし者の勞苦が酬ひらるゝこと頗る薄きを以て既に不正の觀ありしに、富者は今や法律の力に據り又實に公正の名に據りて其不當不正なる行爲を行ふが故にそは更に嫌忌す可きものと爲るなり。是に由りて吾人は現存しつゝある是等總ての國家に就きて密に按ずるに、吾人は神に誓つて是等のものが國家の名稱の下に自己の利益を獲得せんとする富人の結黨に過ぎざるを認むるなり。彼等は先づ彼等が不正なる手段に由りて蒐集せる所のものを喪失するの虞なくして安全に保留し、而して第二に出來得る限り少額の貨幣に對して貧民の勞働を傭入し、而して其利得を詐取す可

き有ゆる技術と方法とを發明し工夫するなり。富人が一般人民即ち又貧民の名に假託して是等の方策を維持し遵奉す可きを命じたる時、そは法律となるなり。然れども是等不義不徳なる人々が其飽くとなき貪慾心によりて有ゆる者を満足せしむるに足る可き物を悉く自己の間に分配したる場合と雖、尙彼等は Utopia の共同團體に觀るが如き富有と幸福とより隔ると頗る大なり。同國に於ては貨幣の使用並に之に對する總ての欲望は全然排除せらるるが故に山の如き不安の堆積は滅盡せしめらる可く而して罪惡過誤に對する最も強大なる誘因は根柢よりして滅絶せしめらる可し。即ち日々の刑罰を以てして猶戒禁する能はず、却て報復せられつゝある詐欺、窃盜、強奪、口論爭鬪、喧嘩、不和、叱責、確執、殺人、謀反、毒害等は貨幣の消滅と共に消滅し去る可きを知らざる者ありや。而して又恐怖、憂愁、不安、勞苦及警戒は貨幣の滅失したる其瞬間に於て直に滅失し去る可きものなり。洵に單に貨幣を缺くの觀ある貧困其者も亦貨幣の除去せらるゝや直に減少し消滅し去る可きなりと。實に Utopia の實現に取りて最大なる敵手たるものは這個の Lady Money と他人の貧困に依りて自己の富貴を計量せんとする Princess Pride たるなり

(Bonar, Philosophy and Political Economy in some of their historical relations. 1893. p. 66. 參照)。

斯くて吾人は厭くまで Henry 八世時代に於ける英國の狀態と相反せるものを Utopia 國に於て發見するなり。遮莫茲に注意す可きは More が其理想郷たる Utopia を典型として社會を改革し、又は寧ろ之を改造するの可能なるを信じたるや否やの點なり。吾人は彼が斯くの如き信念の上に其筆を執りたるを信ずること能はず。More の時代に在りては Utopia は社會の完全なる化成に對する眞面目なる企圖として論ずるよりも寧ろ時代の政治的並に社會的罪惡の照魔鏡として觀る可きものなり。彼は自己の理想郷的改革の到底實行す可らざるを自ら暗示せり。即ち彼は將に擱筆せんとするに當りて曰く「余は Utopia 國には我等が都市に於ては之を期待する (hope after) よりも寧ろ羨望す (wishes for) 可き幾多の事物存するを自認せざる可らず」と。More は屢近世共産主義の父と稱せられたるも (mit der "Utopia" More's begint der moderne Sozialismu. 前掲 Kautsky. S. 466.)、而も彼の Utopia に對する慎重なる研究は彼其人が現代的意義に於ける共産主義者たるを否定するものなり。彼は自ら其著の中に表明せる自己の思想に對し其字義的適用に反對しつゝある

を見るなり。彼は彼の時代が未だ斯くの如き徹底せる改革を容るまでに成熟せざるものなることを何人よりも善く知悉せり。而して一般普通の人類の間に Utopia 的理想に基礎を置ける國家の建設を畫するは殆ど全く如何なる時代に於ても等しく幻想たらざるを得ざるを知れるなり。(一九一九年五月廿日稿)

(附言) 「ユートピア」に邦譯あり。三上正毅氏の筆に成る。流暢平明の文誦す可しと雖、餘り原文の意と隔たること遠く、モアの「ユートピア」の翻譯又は抄譯と稱するよりも寧ろ三上氏の創作たる「ユートピア」と呼ぶ可きものなす。